

平成27年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

「海は宝物！みんながひとつに！！」実施報告書

- 【趣 旨】 何らかの事情により一人親家庭となった子供に、自分を見つめなおしたり、集団と関わったりする活動を通して、自分のよさや仲間の大切さに気付かせ、自分らしさを発揮できるようにする。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
- 【共 催】 社会福祉法人 広島和光園
- 【期 日】 平成27年8月23日（日）～25日（火）
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【対 象】 母子生活支援施設で生活している子供
- 【参加者数】 33人 小学校1年（6人）、小学校2年（9人）、小学校3年（8人）、
小学校4年（3人）、小学校6年（3人）、中学1年（1人）、
中学2年（3人）

【企画・運営のポイント】

- 参加する子供たちの課題を把握し、より効果的なプログラムを作成するために、母子生活支援施設職員と事前の連携を密に行う。
 - ①事前に施設を訪問し、子供たちの様子を実際に見学するとともに、施設職員から普段の子供たちの様子や家庭状況を聞き取り、綿密な打ち合わせを行う。
 - ②IKR（「生きる力」を測定するための評定用紙）実施の協力を依頼し、参加する子供たちのもつ課題を把握し、その結果を共有する。
- 自分の良さや仲間の大切さに気付かせるために、キャンプファイアーや野外炊事でのうどん作りのような、一人では達成できない体験をさせるプログラムを取り入れる。
- 参加する子供たちと年齢の近い法人ボランティアを複数配置し、子供たちが他者とのコミュニケーションを活発に行ったり、安心して生活したりできるようにする。
- 法人ボランティアから子供たち一人ひとりへ、毎日ふりかえりの用紙に評価の言葉を記入するようにし、翌日の朝に子供たちに手渡すことでその日の活動の意欲を向上させる。
- 法人ボランティアに協力を仰ぎ、全体のプログラムを構成する上でキャンプファイアーの運営や各プログラム補助を行ってもらうことで、プログラムの内容や参加者の支援をより充実させる。

【活動の実際】

【第1日目】8月23日（日）

- 11:30 交流の家着
11:40～ 始まりの式・オリエンテーション
12:10～ シーツ受け取り・ベッドメイク
12:40～ 昼食
13:30～ アイスブレイク・カプラ
15:30～ 水遊び
18:30～ 入浴・夕食



19:30～ ウミホテルの観察
 21:00～ 1日のまとめ
 21:30～ 就寝



【第2日目】8月24日(月)

6:40 起床
 7:10～ 朝のつどい、清掃
 7:50～ 朝食
 9:00～ 野外炊事
 14:00～ 休憩
 15:30～ ファイアー準備
 17:00～ タベのつどい、夕食
 18:30～ 入浴
 19:30～ キャンドルのつどい(雨天の為)
 21:00～ 1日のまとめ
 21:30～ 就寝



【第3日目】8月25日(火)

6:40 起床
 7:10～ 朝のつどい、清掃
 7:50～ 朝食
 9:00～ 掃除、退所準備
 9:30～ ウォークラリー(荒天の為)
 12:00～ 昼食
 13:00～ まとめ、アンケート記入
 16:00 交流の家出発

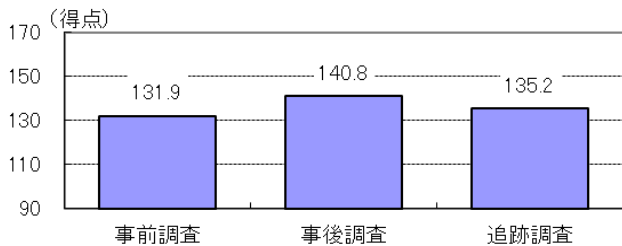


【成果】

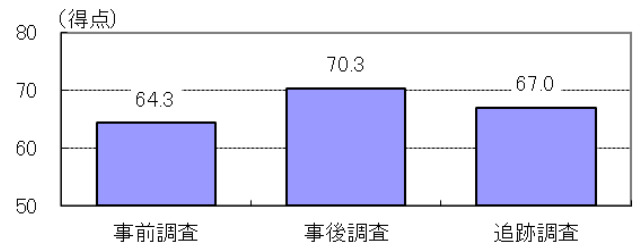
(1) IKR の結果から「心理的社会的能力」が事前から事後にかけて 6.0 ポイント向上し、その向上には有意差が見られた。また事前調査より追跡調査のポイントが向上した項目が 28 項目中 19 項目あった。

『I K R 評定用紙(簡易版)』参加者アンケート調査より

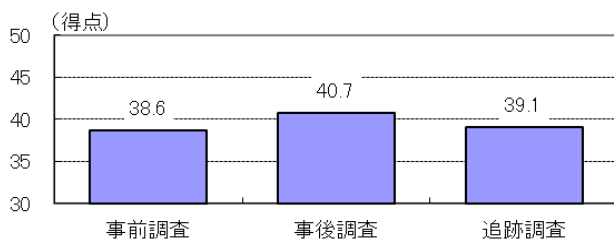
「生きる力」の変容



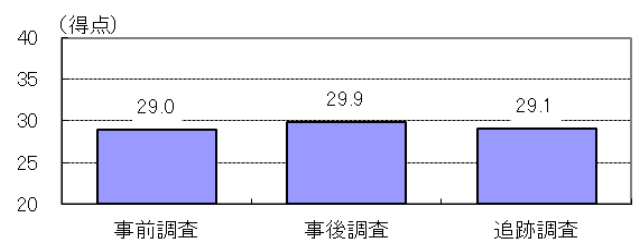
「心理的社会的能力」の変容



「徳育的能力」の変容



「身体的能力」の変容



事前調査よりも追跡調査のポイントが向上した項目

No.	項目	事前調査	事後調査 (終了直後)	追跡調査 (1か月後)
1	いやなことは、いやとはっきり言える	4.32	5.11	5.11
3	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.11	4.95	4.16
4	暑さや寒さに、まけない	4.58	5.16	4.68
5	だれにでも話しかけることができる	4.53	4.89	4.84
6	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.16	4.68	4.37
7	多くの人に好かれている	3.37	3.53	3.58
9	自分のことが大好きである	4.32	4.89	4.58
10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	5.58	5.47	5.79
12	いやがらずに、よく働く	4.79	5.21	5.21
14	自分かってな、わがままを言わない	4.79	4.95	4.84
15	小さな失敗をおそれない	5.00	5.26	5.05
17	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.16	4.89	4.42
18	とても痛いケガをしても、がまんできる	4.68	5.05	4.79
20	季節の変化を感じるができる	4.37	5.26	4.58
21	だれとでも仲よくできる	4.58	5.21	4.95
23	だれにでも、あいさつができる	5.26	5.63	5.58
25	前向きに、物事を考えられる	4.53	5.16	4.89
27	からだを動かしても、疲れにくい	4.68	4.68	4.84
28	お金やモノのむだ使いをしない	5.16	5.21	5.58

- (2) 参加者とボランティアがしっかりとかわえることが重要と考え、アイスブレイクにカプラを取り入れた。互いに打ち解けあうことができ、その後の活動もスムーズに行えた。
- (3) ボランティアが中心となって行ったキャンドルのつどいでは、天候の関係で急な変更となったにもかかわらず、しっかりと対応することができ、事前にしっかりとねられた歌やゲームを中心にしたプログラムでひとつにまとまった光景が多く見られた。
- (4) 野外炊事では、子供たち同士「次は〇〇くんの番ね。」などグループの中で順番に役割が割り当てられ、楽しそうに手や足でうどんをこねる様子が見られた。それぞれ学年に応じてグループの中で自分らしさを発揮することができ、達成感を感じることができていた。
- (5) 子供たちのアンケートの「友達にも知らない人にも話しかけるのが好きになった。」「みんなで協力したので楽しかったです。」といった感想から、参加した子供たちが仲間の大切さに気づき、積極的に人と関わり活動に取り組んだことがわかった。

【今後の課題】

- 今回もボランティアのメンバーからの申し出により、前泊して活動プログラムやキャンプファイヤーの運営について検討を行うことができた。今後もボランティアの前泊を含めて計画をしておいた方がよい。
- 野外炊事のうどんづくりでは、片づけも含めると予定よりもかなり時間がかかってしまった。うどんをこねる時間よりも、うどんを切る時間が予想以上にかかっていたことを考えると、1グループ分の量を少なくし、時間短縮を図る方がよい。
- 今回は事業後半に台風が接近し、プログラムの変更を余儀なくされた。今後はプログラムが天候に左右されることを配慮して、雨天時のプログラムを考えておくのはもちろんのことであるが、雨天プログラムであっても十分に目標を達成できるよう、内容の充実を図る。